

tenyou to hairetsu 転用と配列 2016年10月1日[土] — 10月16日[日] 11:00～19:00

mori taizo exhibition 森 太三

月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

※10月1日[土]は「ニューブランシュ2016」にあわせ22:00まで開廊

Gallery PARC ギャラリー・パルク

協力: 芦屋市立美術館 みずのき美術館

森太三は、粘土や紙片などの身近な物質に、手による単純な繰り返しの行為を加え、それらを集積することでひとつの空間をつくります。それは特定の「何か」を空間につくるのではなく、鑑賞者の中に何か「起こる」ための「空間をつくる」ことに主眼を置いて取り組まれているものと言えます。

粘土を纏める、紙片を切る、粒を連ねる、木々を積み重ねる。

無機質な素材への単純な行為の集積によってつくられた空間は、雨降る間際の雲間のような(「空を眺める」2011 ギャラリーwks.)、波打ち寄せる海辺のような(「記憶と気象」2013 ギャラリーパルク)景色を空間に出現させます。また、それらは鑑賞者の記憶や経験と混ざり合って、時に雨上がりに晴れ間の覗く雲海や、あるいは上空から見た気象図の雲のように、それぞれの目の前に異なる情景ともなって広がるものでした。

Gallery PARCでは3年ぶりとなる森太三の個展『転用と配列』は、これまでの森の仕事の延長線上に位置したものといたえますが、そこには近年の森の興味と視点を見ることが出来ます。「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2015」に出品された作品《関係のベンチ》(2015年度公募大賞 グランプリ受賞作品)は、カラフルな無数の木々が立方体に集積された彫刻であり、六甲山上の眺望スポットである「六甲枝垂れ」付近に置かれたものでした。そして、それはアートイベントとの関係性において「作品」と呼ばれ、眺望スポットである場との関係性において「椅子」として使用され、目に入る景色の一部としては「箱」と認識されてその場に景色をつくりました。また、鑑賞する者が前に佇めば周囲から「作品」として鑑賞され、腰掛ける者がいれば皆に「椅子」として座られるものとして、鑑賞者が作品のあり方を変容させるとともに、そのことが新たな景色を周囲につくりだしていくものでした。

この《関係のベンチ》において、これまでの森の「空間をつくることで鑑賞者の中に様々な景色や情景が立ち上がること」への興味が、そこから鑑賞者の見立てや振る舞いを景色(作品)の一部として積極的に取り込むことで、作品が作家の目論見を超えてその在り方を転じていくことへと移っていると言えるのではないのでしょうか。

それは、森が展示構成・設営やデザインなどをおこなう別名義として2014年に設立した「studio森森」(みずのき美術館での展示構成、ギャラリー・オーブでの「共生の芸術展 DOOR」展、芦屋市立美術館での「チェコ絵本をめぐる旅」展などでの什器制作・設営などを担当)の活動とも関わるもので、現在は作家としての制作と、職人としての制作の両方を手がける森は《関係のベンチ》について、「『保管のために庭先に置いていたこの「作品」を、山の上に運んでは椅子として置き、美術館に運んでは什器として置く。作品に手を加えることがなくとも、置かれる場所や人との関わりによって「作品」はその機能や呼び名だけでなく、その在り方や周囲につくられる空間までもが、どこか異なるものに転じていくことが面白い」と言います。ここから、森の現在の興味は、作品が空間や鑑賞者を転用させることだけでなく、空間や鑑賞者がまた作品を転用させること、また、その反復において作品が作家の目論見を超えて転じていく様を見つめることにあるといえるのではないのでしょうか。

本展「転用と配列」には、この《関係のベンチ》(1階店舗・御幸町通側スペース)をはじめ、「チェコ絵本をめぐる旅」展で什器となっていた《色相の椅子》などの作品だけでなく、森がこれまでの制作や仕事で用いた大量の木材が会場に運び込まれました。会場では丁寧に材と空間を見極め、ここで過ごす人を想像し、そこに生まれる関わり方に思いを馳せながら、ギャラリー空間にまるで迷路のような構造物を仮設し、空間をつくっています。また、この迷路に設置された木、椅子、板、箱、木切れを寄せた棒切れなど、いずれも木を素材にしたこれらは、鑑賞者の認識によってその呼び名や役割を異ならせる(転用される)ものとして、空間に場をつくり、ギャラリー空間を「何か」に転じさせます。

本展において森太三のつくりだす景色、鑑賞者それぞれにとっての情景との出会いをお楽しみいただくとともに、自身も作品の一部になるかのような体験をお楽しみいただければ幸いです。

森太三 MORI Taizo

Artist Statement

積む。運ぶ。降ろす。
切る。ヤスリをかける。色を塗る。組み立てる。眺める。
保管する。
積む。運ぶ。降ろす。
展示する。眺める。座る。寝る。
積む。運ぶ。降ろす。
保管する。
積む。運ぶ。降ろす。

積む。運ぶ。降ろす。
切る。組み立てる。ヤスリをかける。色を塗る。眺める。
保管する。
積む。運ぶ。降ろす。
組み立てる。展示する。眺める。
解体する。
積む。運ぶ。降ろす。
保管する。
積む。運ぶ。降ろす。

C.V

1974年 大阪府生まれ
1999年 京都精華大学大学院美術研究科立体造形専攻修了

近年のおもな主な個展

- 2013 「記憶と気象」ギャラリーPARC/京都
- 2012 「海を眺める」ギャラリー播/京都
 - 「海に連なる」deem/兵庫
 - 「森を眺める」阪急メンズ館/大阪
- 2011 「雲を眺める」neutron tokyo/東京
 - 「雲を眺める」くちばしneutron/京都
 - 「空を眺める」GALLERY wks./大阪
 - 「Rain to Rain」neutron kyoto/京都
- 2010 「果たすことの連続」neutron tokyo/東京
 - 「Rain for a space/Ghost of mountain」文椿ビルディング/京都
 - 「Rain for a space/Ghost of wave」岸和田浪切ホール/大阪
- 2009 「Rain」neutron/京都
 - 「世界の果て」PANTALOON/大阪

近年のおもなグループ展

- 2016 「六甲ミーツ・アート芸術散歩2016」天覧台/兵庫
- 2015 「本の空間 ざわめきのたび」京都精華大学ギャラリーフロール/京都
 - 「六甲ミーツ・アート芸術散歩2015」六甲枝垂れ/兵庫(公募大賞受賞)
 - 「木を見て森を見る 林勇気・森太三・山内庸資」iTohen/大阪
 - 「OPEN FIELD」弘益大学美術館/ソウル・韓国
- 2014 「余裕満々」京都精華大学 ギャラリーフロール/京都
- 2013 「HOME PARTY 01」みずのき美術館/京都
 - 「ゴヤン市彫刻シンポジウム2013」ゴヤン・韓国
 - 「水月のしつらえ」白白庵/東京
- 2012 「House of DNA」森太三・入谷葉子 neutron tokyo/東京
 - 「うっせみ」常懐荘/愛知
 - 「うたかた」アートラボあいち/愛知
 - 「縁-enishi-」西武渋谷店 美術画廊/東京

その他、ワークショップなど多数

また、様々な関係性の中から表現を立ち上げる別名義の個人プロジェクト「STUDIO森森」として、「HOME PARTY 03 -虹の美術館-」(2015・亀岡市文化資料館・みずのき美術館/京都)、「HOME PARTY 02」(2014・みずのき美術館/京都)、「集積と解放」石/二井貞治(2013・京都府庁旧本館/京都)などの展覧会企画/コーディネイトを担当。その他、多くの会場デザイン・制作・設営などを手がける。